

ふるさと
筆都が育てる

ふるさと
筆都を育てる

熊野高等学校

校内進路説明会、
開催される！

5月18日(土)、熊野高校において校内進路説明会がおこなわれました。大学、短大、専門学校、公務員、就職について各校等の講師の方々から、直接生の情報を聞くことができるとあって、生徒のみならず保護者の方々も説明に聞き入っていました。



各学校のパンフレットを手にし、次の会場を訪れる生徒や就職の説明会では実際の「礼」の仕方等の実技講習を受け、現実の厳しさを学ぶ生徒もいました。



セミナーハウスで
学年懇談会

6月12・14・17日に各学年に分かれ、学年懇談会がおこなわれました。

P.T.A会長、学校長の挨拶、学校側の説明、そして各クラスに分かれて学校生活、進路などについて熱い話し合いがおこなわれました。

今、美術部が熱い！

秋のデザインコンクール、高等学校総合文化祭にむけて、筆を運びさせているのは美術部です。一枚の作品に心を込め、時間をかけて仕上げています。



くまの俳壇

熊野俳句同好会

【熊野婦人俳句会】

朧曳き帰る車屋黒づくめ
フリージアかたくな心ほぐしけり
新緑や魚見櫓の旗見えて
とある家のそここ都忘れかな
亡き夫と夢で向き合ひ柏餅
喪の明けて心やうやく風五月
幼児の歩み確かや五月晴
たんぼぼの絮を散らして下校かな
草餅に日向の匂ひありにけり
初夏や仔犬やんちゃになるばかり
【西公民館俳句グループ】
子の濯ぐ母の襦袢や桑の花
打ち鳴らす魚板のくぼみ蝶の屋
鶯に縄張りありや日々鳴ける
花の下朝市の魚はねてをり
読経の四方に笹楓の芽
堰落つる水の白さよ風光る
ふらここの錆たるきしみ風の中
春眠の覚めて媪に戻りけり
子を送る道濡れてをり月朧
つばくらめ曲線にとび路地に入る
廃鉱の山の藤房短かかり

桜から始まって桃、杏などが例年より早く咲いたという。麦の穂も早く出ている。このあと実際どうなるのだろうか。地球温暖化だろうか、三月中に中国に降った黄砂は一万トンだという。その他を合計すると一億トンと報じられていたが、恐ろしいことである。
これからの私達の地球、自然は、不安であるが、俳句は自然が相手、正しく表現したいものである。

木村 里風子

工藤 義夫
亀谷 清子
阪本 眞理子
堀野 よしえ
立花 フクヨ
久保田 文子
大田 啓子
上野 貞子
山崎 信子
隠士 信子
西村 柳子
別府 藤子
渡辺 喜美子
高橋 法江
長山 逸子
尺田 せつ
荒谷 光子
関村 光子
南村 マサ子
進藤 隼美
木村 里風子